

「暑さ寒さも彼岸まで」と言いますが、言葉通りだ
いぶ過ごしやすくなりました。

世の中この1ヶ月間はダイアナ元妃のニュースで
いっぱいでした。たまたま事故の翌日イギリス、
ロンドンの空港に立ち寄りしましたが、新聞はどれ
もダイアナ特集、中には50ページに及ぶカラー
写真で特集号を組んでいるものもありました。
新聞は彼女が世界の病める子供達に多くの愛を捧
げていた事も紹介していました。そして抗ガン剤
で髪の毛がない子を、やさしく抱きかかえている
写真も載っていました。

彼女の笑顔は病気と闘う子供達の心をどれだけ癒
してくれたことでしょうか。きっと彼女はひとの心
の弱さを知っていたのでしょうか。

そんな彼女の笑顔がもう見られないと思うと残念
でなりません。

< 第 2 7 回 ほほえみの会 >

今回も初めての方や医師看護婦を含め10人ほどが集まりました。

最近入院した小学校6年の男の子、今まで元気な子が突然の入院
本人も気持ちの整理がつかないのか、面会に行った母親に口も聞
かず、反抗的な態度。でどう対応したらいいのだろうという悩み
が出ました。

男の子を持つ親からは、思春期を迎えると普通の子でも、親に対
して恥ずかしい気もあるし、反抗的にもなる。でもどこかに甘え
たい気持ちがあるのも事実で、ほっておけば向こうから声をかけ
てくるだろう。暫くは近くにいてあげるだけで様子を見たら如何
という話でした

また、初めて苦しい治療を体験している時なので、友達もできな
いかもしいれないが、友達が出来るとまた変わるだろう。

そして苦しい治療をしているときに「頑張って」という言葉を身
内の人から聞くのが辛かったという子供の体験談も出ました。苦
しい治療に耐えて頑張っているのにこれ以上何を頑張るのという
ことのように。友達とか他人からの「頑張って」と親の「頑張
って」は違うようです。

近く出産される方がいて、臍帯血移植についても話題が出ました。
臍帯血は移植する骨髄の中でも拒否反応が少なく、通常の骨髄の
10倍の造血幹細胞を持っているといわれ、6つある の型が
1つ合わなくても、また兄弟間なら3つ合わなくても移植が出来
るという事です。採取するにも赤ちゃんが生まれた後のへその緒
から採取するので母体への影響もほとんどないという優れたもの
です。しかしまだ新しい治療法で冷凍保存の方法や費用面などで
病院の負担が大きいということです。
早く公的なバンクが出来ることが望まれています。一部にバンク
促進の活動もあり、厚生大臣への署名提出もありました。会でも
応援していきたいと思っています。

次会は 月 日(日) 11時からです

次会は「のぞみの会 静岡支部会」と合同で開催します。
「メンタルケアと家族の対応」というテーマで講演もあります。
講師は聖路加国際病院小児科部長 細谷亮太先生です。
細谷先生は先日、片岡鶴太郎主演のテレビドラマにもなった
「川の見える病院から」の原作者でもあります。

ほほえみの会 代表 池田恵一